弘大農学生命科学部 同窓会会報

第３６号
平成３０年５月　発　行
発 行 弘前大学農学生命科学部同窓会
TEL ０１７２－３６－２１１１
FAX ０１７２－３９－３７５０
振 替 ０２３４０－７－５６４
印 刷 （株）　笹　軽 印 刷

同窓会活動の活性化と母校の発展を願う

同窓会長　一　戸　洋　次

同窓会の会員の皆様には、ますますお元気でご活躍のことと心からお慶びを申し上げますとともに、同窓会へのご支援に対しましても深く感謝申し上げます。

さて、皆様ご存じの弘前市さくらまつりは、大正７年（1918年）に「観桜会」としてスタートして以来、本年（2018年）で100周年を迎えました。この会報がお手元に届くころには葉桜の季節となっていますが、毎年さくらの季節には内外から多くの観光客を集め、感動の瞬間を提供しています。

このような見事なさくらは先人の長年にわたるひたむきな努力があったからこそと思います。近年では樹木医などの桜守によるソメイヨシノ等の桜樹の剪定や管理技術の改善などによって日本一のさくらまつりとも称されるようになり、これからも歴史を重ねるほど輝きを増していくのではないでしょうか。

県外にお住いの皆様にも、ぜひとも機会を作っていただき、満開のさくら、夜桜のトンネル、花吹雪と花絨毯・花筏そして市街地の変わりようをご覧いただき、弘前で過ごされた学生時代に想いを馳せながら心の休日を楽しまれてはいかがでしょうか。

ところで、私たちの農学生命科学部は、昭和30年（1955年）に農学部として創立されて以来、平成29年度末までの卒業生の総数は7,663名、研究科修了生は1,102名を数えるまでとなりました。

この間に学部は何度かにわたる改組を経て、今や５学科（生物学科、分子生命科学科、食料資源学科、国際園芸農学科、地域環境工学科）で、学生定員215名、教員は71名（29年度末）と全国の国立大学法人農学系学部の中でも大規模グループに位置づけられるように質的にも量的にも拡充されてきました。これも学部創立時の地域関係者の並々ならぬご尽力があり、その後も大学関係者や支援の皆様のたゆまぬ努力の結晶であると深く敬意を表すところであります。

このような体制整備は、これまで以上に人財育成や地域貢献といった成果を期待されたものであることは明らかであり、学生の皆様も充実した環境の中で自らを高め、期待される社会人に成長していただきたいのであります。

一方、地域の関係者としては、「地（知）の拠点」を目指す弘前大学とともに発展していく観点から、いろいろな面で学部を支援していくことが重要であります。

学部におかれましては、佐々木長市学部長を中心に地域の課題や時代の要請に応じた教育研究の実を挙げられ、地域貢献につながるよう大いに期待しております。

話は変わりますが、昨年７月に平成29・30年度の同窓会総会が開催されました。議題・決定事項については12ページに掲げておりますが、その際、特に協議されたことは財源問題であります。それは会員数が年々増加しているにもかかわらず、同窓会費納入者は右肩下がりに減少しており、このような状況が続きますと同窓会活動に支障を生じる恐れがあるということです。同窓会は皆様からの会費収入によって運営されていますが、これまでその主体を担ってきた高齢世代の会員減少と若い現役世代の同窓会離れが要因であります。

このため、可能な限り経費節減に努めていくことはもちろん、若い世代の皆様に同窓会活動へのご理解をいただくことによって、歯止めをかけていかなければならないと考えております。その一環として会員同士の情報交換や親睦の輪を広げていくためにも支部活動を支援していくとともに、新たに同窓会の概要をしたためた栞の作成配布を始めるなど、今後とも皆様のご意向を伺いながら創意工夫して参りたいと考えております。

同窓会としては、母校の発展を願い、可能な限り学部や学生の支援に努めていく一方、同窓会活動の活性化に向けて取り組んで参りますので、皆様からご意見や支部同窓会・会員の活動状況などの情報をご提供いただくとともに、会報への投稿も大いに歓迎いたします。

なお、平成31年は弘前大学創立70周年の記念すべき年に当たります。同封している弘前大学同窓会報や記念事業募金趣意書にありますように、国際交流基金の設立など今後10年間にわたる教育研究活動の強化充実に向けた事業の具体化を図ることとしていますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

農学生命科学部の近況と大学創設70周年記念事業について

農学生命科学部長　佐々木　長　市

同窓会ならびに関係の皆様には、平素より学部に対するご協力等をいただき心より感謝申し上げます。“地域貢献が地方大学の大きな使命である”との認識がますます高まり、地域から必要とされるより良い大学及び学部づくりには、同窓生各位のご協力は欠かせないことと思っております。

弘前公園は、今年桜祭100周年記念の年となり、大々的な宣伝がなされております。お城の移動も大々的に行われ、昔と異なる位置での姿が観覧できることがニュース等で報道されております。同窓生各位にとっては過ぎし日の青春時代の思い出が蘇ってくるのではと思います。是非これを期に、母校へ訪問してくださるよう期待しております。

今年は学部改組後２年目になります。少子高齢化や地方の人口減などの地域の抱える課題の一端を見据えた、地域の課題を汲み上げる形で改組を進めておりますが、卒業生の輩出はこれからになります。改組では、青森県が誇れるりんごや長いもなどの農産物や、マグロやナマコなどの水産物の品質向上に加え、加工食品などの創出の出来る人材や、食に関する基本的な知識を身に付けて、地域の食産業に貢献できる人材の育成を改組の一つ目の柱としております。また、今日の農業では、農産物の世界展開や国内需要の拡大が期待できない現状を打開することが必要となっております。既に、りんごの輸出では日本一の実績があります。青森県農業の成長産業化を推し進めるうえで、グローバルに活躍できる人材、あるいは農産物の取引に強い人材の養成は重要と考え、二つ目の柱としております。こうした地域の特性や要請を踏まえ、これまでの生物資源学科に食品コースを増設し、学科名を食料資源学科と改称しました。また、園芸農学科には、国際的な農産物の取り引きに精通した教育を強化し、学科名を国際園芸農学科と改称しております。この学科では、２年次に学生全員を１週間程度の海外研修させることを必修としています。現在中国、タイ、アメリカ、ニュージーランド等の国で研修を行っております。このほかの４学科も選択ですが、海外研修を実施しております。

さて、来年は、本学が創設されて70年になります。来年６月１日（土）には、皆様のご協力のもとに大学創設70周年記念事業を行う予定です。同窓会各位と後援会各位の多大なるご協力とご理解の賜物と深く感謝申し上げます。寄付金の一部は、学部の活動にも広く支援される形となっております。何卒記念事業の趣旨にご賛同いただき、寄附等のご協力を宜しくお願い申し上げます。

農学生命科学部のさらなる発展にむけて努力して参りますので、同窓生の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、ますますのご健勝とご活躍を祈念しております。

事務局から

平成17－18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送またはファックスでお送り下さい。様式は会報第23号（2005年６月１日発行）の10ページにあります。

同窓会ホームページ（http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/）からもダウンロードできます。

藤崎農場技術職員の藤田知道氏・佐藤早希氏が「平成29年度 全国農場技術賞」を受賞！

この度、藤崎農場に勤務する技術職員の藤田知道氏および佐藤早希氏による技術業績『リンゴのブランド化戦略による農場の多面的機能強化』が、全国大学附属農場協議会から平成29年度全国農場技術賞を受賞しました。本農場では、果肉まで赤い「紅の夢」や強い甘味と蜜の多さが特徴の「こうこう」等を開発、栽培技術を研究・確立し、紅の夢では「紅の夢普及推進委員会」を立ち上げ、自治体・生産者と連携して普及に努めるほか、こうこうでは研究で判明した「収穫後15日以内が特に美味しい」という特徴を生かして贈答品「逸品こうこう極」を商品化し、生産者の収益確保に向けた販売モデルの提案を行ってきました。更に、リンゴジュースの絞りかすや木炭化したリンゴの剪定枝を堆肥に使うことで高品質の野菜生産につなげ、廃棄物ゼロを目指す「ゼロ・エミッション」の確立に向けた挑戦も行っています。藤崎農場のジャムやジュースのデザインやロゴも２人の自作であり、日本だけでなく、海外の協定校の方々にも非常に好評です。弘前大学のCOC事業に相応しいこのような活動が評価・受賞されることは、携わってきた多くの方々の喜びややる気に繋がっていると思います。今後も、産学官連携の取り組みに力を入れると共に、地域のニーズをくみ取って還元できる農場であるべく、更なる活動に努めてゆきます。　（文責：林田　大志）

藤田知道さんから一言

2013年から紅の夢の普及を中心に行政や企業、

右から３人目が佐藤早希氏、右から４人目が藤田知道氏

生産者などと連携し、紅の夢の斑点障害の防止、果肉着色条件の検証など栽培技術の確立に向け研究を行うとともに情報発信してきました。その活動を通じて様々な人から刺激を受け、私自身精進することができました。中でも人とのつながりが新たなプロジェクトへ発展することを肌で感じられたのが最大の収穫であり、また今後の発展にも胸がふくらみます。

４年にわたる怒涛の活動が今回このような形で表彰されたことが誠に感慨深く、大変うれしく思います。今後も地域に根差した研究活動を続け、産官学連携を目指します。

佐藤早希さんから一言

この度の受賞を身に余る光栄と感じております。藤崎農場で勤め始めてからずっと、りんごの大学オリジナル品種に関わる研究活動を続けてまいりました。秋に収穫期を迎える作物ですので、秋季に果実調査が重複しハードスケジュールだったことを思い出します。それでもその品種たちに興味を持ってくださる生産者の方々や、地域を挙げて普及に取り組んでくださる行政、学内の多方面にわたる関係者、そして美味しいと喜んでくださる消費者の皆さんに支えられ、我々の取り組みが評価されたことは感謝の念に堪えません。今後もまた、皆様のご厚意に恥じぬよう一層精進いたします。

定年退職教員からの寄稿～1

お陰様で24年

食料資源学科　戸　羽　隆　宏

私は1975年３月に農学部園芸化学科を卒業した同窓生なので、同窓会の幹事を12年務めました。この間、８年に渡り定年退官（退職）なさる先生方への原稿依頼を行いましたが、遂に依頼される側になってしまいました。今は、学生さんに重大な事故も無く、定年まで在職できたことに安堵しています。いくつかの委員会で委員となりましたが、こちらも何とか大過なく（本人評価ですが）務め上げることができたのは先生方のご温情に依るものと感謝しております。

振り返ると1994年４月に助教授として採用していただいて以降、本年３月末までの24年間を母校で過ごしたことになります。所属は採用時に農学部生物資源科学科でしたが、その後農学生命科学部応用生命工学科、生物資源学科、そして現在の食料資源学科へと変わりました。この間、96人の卒業研究、25人（うち18人は内部からの進学者）の修士研究、１人の博士研究を指導しました。指導とは言うものの一緒に試行錯誤する過程で私が成長させて貰ったと言うのが正しいでしょう。

人伝にでも、卒業や修了生が元気に生活しているらしいと聞くとほっとします。メールや年賀状で近況を知らせてくれたり、大学を訪れてくれると嬉しい。私の担当授業科目は「食品科学」と「食品安全学（あるいは食品衛生学）」ですが、講義で学んだ知識が仕事で役立っていますとか当時の教科書で採用試験勉強をしましたとか言って貰うと、なお嬉しい。研究分野は食品微生物学なので、卒業研究や修士研究で使った技術を仕事で使っています、と言って貰うと口元が緩んでしまいます。卒業研究や修士研究で試行錯誤した経験が今生きています、とか言われると、目頭が熱くなってしまいます。大学教員で良かったと思うひとときです。同時にそう言って貰えるほどのことを学生さんに対して自分はしたのだろうかと、面はゆさも感じます。

入学しながらも積極的に進路変更を選択した訳でも無いにもかかわらず、卒業に至らなかった学生さん達のことは今でも気がかりでなりません。どこかで平穏な人生を送ってくれていることを願うばかりです。

在職24年間での最も記憶に残るそして思いがけない（不謹慎ですが）出来事はと言うと、2016年４月に食品科学コースが出来たことです。私が卒業した当時は農産物利用学と園芸産物利用学と言う二つの講座があり、広義の食品科学分野の教員が６人おりました。その後、教員は３人に減ってしまいましたが、コースが出来たことにより、2018年度中には９名にまで増えます。私は傍観していただけなのですが、退職間際の嬉しい出来事です。当学部の教員にとって、地域経済の活性化に貢献する研究をすることは重要な使命でしょうけれども、同時に先生方の知的好奇心を満足させる自由な研究も大切にして欲しいものです。

在職中にお世話になった皆さんに感謝するとともに、農学生命科学部がこれから増えるであろう多様な学生さんを受容する度量を持ちながらも、しぶとく生き残って欲しいと願いながら筆を置きます。

定年退職教員からの寄稿～2

同窓会会員の皆様にも感謝

国際園芸農学科　鈴　木　裕　之

前職の青森県畜産試験場研究員から、1988年に弘前大学農学部に助教授として赴任して以来、早いもので30年が経ち、退職を迎えます。所属した学科は、赴任当時の農学部農学科から、平成２年の農学部改組により農業生産学科、平成９年の農学生命科学部設置により生物生産科学科、平成20年学科改組により園芸農学科、平成28年には国際園芸農学科と５つの学科に所属したことになります。同窓会会員の皆様とも、これらの学科の教員として交流させて頂きました。そして、私が学部同窓会と密接に関わるようになったのは、平成21年度から24年度までの学部長時代でした。とくに平成23年３月に発生した東日本大震災後の被災学生に対する支援策を相談させて頂いた時には大変お世話になりましたので、以下に概要を示し、ここに改めて感謝の意を表したいと思います。

大震災後間もなくして、農学生命科学部では各学科の教員が分担して学生の安否確認に取りかかりました。１・２年生に対しては担任教員が、各研究室の３・４年生と大学院生には指導教員が連絡を取ることとしました。しかし、なかなか連絡が取れない学生もおり安否確認は難航しました。就職活動のために弘前を離れていた学生がいたこともその理由の１つです。

最終的な集計では、農学生命科学部と農学生命科学研究科を合わせて学生31名の実家が被災したことが確認されました。学生の家族も含め人的被害がなかったのには安堵致しました。これら被災学生に対して、弘前大学の支援の他に、農学生命科学部でも学部独自に以下のような被災学生の勉学・生活支援策を講じることができました。当時の学部同窓会長三上　巽氏に支援策をまずご相談申し上げ、三上会長のご提案で青森支部総会に陪席させて頂き、学部独自の支援策案を学部長として直接ご参集の同窓会会員の皆様に説明する機会も得ました。主な支援策は以下の通りでした。

① 学部後援会に入会している被災学生に対するお見舞い金の給付
② 貸付を希望する被災学生に対する無利子貸付制度の導入
③ 被災学生による教育指導補助制度の導入

（注）③は被災学生に、新入生や推薦入学予定者に対する入学前教育に関わる教育指導補助をお願いし、これに対して謝金を支払う形の支援策です。

上記の②と③については、平成24年度も継続して被災学生への経済的支援を行いました。併せてここに、上記事業のために拠金等のご協力をいただいた学部後援会ならびに学部同窓会の皆様に心より感謝を申し上げます。

東日本大震災発生時に就職活動中の学生も多大の影響を受けた例を紹介します。就職試験の面接のため上京していた学生の一人は、地震発生時に我が身を護るために身近にあった机の下に飛び込みました。その時、同じ机の下に避難した初対面の学生と昵懇の間柄となり、その方のお宅に数日お世話になりながら無事に弘前のアパートまで帰宅できたそうです。また、当時は交通網も遮断されておりました。安否確認作業で連絡が取れても、就職活動先で足止めを余儀なくされ、かつ手持ち資金が乏しくなった学生がいた場合には、付近にお住まいの同窓会会員に学部長として救援をお願いしようとまで考えておりましたが、幸いにして同窓生のお手を煩わせることなく、所属学生全員の安否が確認できました。仙台での就職活動中に被災した学生の例ですが、交通網が麻痺したために帰る手段がなく途方に暮れていたところ、見ず知らずの年配の方が自家用車で弘前まで送り届けて下さったとの報告も受けております。このように不測の事態に遭遇しながら、周囲の皆様のご厚情もありましたので、同窓会会員の皆様に就活中の学生の救援を依頼しないで済んだことを報告して、擱筆したいと思います。

定年退職教員からの寄稿～3

ナマコをたずねて三千里

国際園芸農学科　澁　谷　長　生

ナマコの世界に足を踏み入れてしまった

「ナマコをたずねて三千里」とは私の最終講義のテーマでした。ナマコなどという変な生き物に心を奪われてしまったのです。聞けば聞くほど、知れば知るほど奥が深いナマコの世界、一歩足を踏み入れてからは生き物としてだけでなく、消費、流通を歴史的に、そして世界的な視野で検討したくなったのです。ナマコを巡る人と人の交流、対立、搾取、お金、賄賂、これらの言葉がナマコにはつきものです。そしてそれらの中心に位置するのが中国です。ナマコをたずねるとはその大半は中国を徘徊する旅でもありました。

日本産ナマコを中国人は知らない

日本にも青森産や北海道産を中心に良質ナマコがあります。日本産乾燥ナマコの大半は香港への輸出となっています。しかし中国国内店頭で販売されるときは「日本産」という名前が出ることはほとんどありません。日本産乾燥なまこは中国産乾燥ナマコとして販売されているのです。一般の中国人消費者に日本産ナマコの情報が伝わることはなく、大半の中国人は日本でナマコが採取されていること自体を知りません。

中国人のナマコ消費の特徴

中国人がナマコを好きな理由は健康によい、高級品だから、おいしいという順序です。中国人にとってナマコは健康食品として認識されており、購入目的では贈答品として利用されている割合が高いのも特徴です。贈答品用として重視する点は「ブランド」「見た目」です。大連地域を産地とするナマコブランドへの評価が高く、養殖ナマコより天然ナマコを好んでいます。大連市内ではナマコ養殖業者、ナマコ加工会社、ナマコ販売店、レストランなどが数多くあり、市内を歩くと至る所で、たとえばバスの横面やポストなどが宣伝用に利用されています。日本では想像が出来ない程ナマコ宣伝が行われているのです。

定年後も日本産ナマコのブランド化を目指して

中国におけるナマコブランド化で重要な点は養殖ナマコなのか、天然ナマコなのかです。養殖ナマコは成長剤や抗生物質などの利用が常態化し、薬や有害物質などの残留による安全性への不安の声が最近よく聞かれます。養殖による環境悪化も表面化しています。

これに対し天然ナマコは原料の安全性が保障され、養殖よりも栄養価が高いとみなされています。中国人のナマコブランド志向は日本産ナマコにとって有利なことばかりです。なぜなら日本産はすべてが天然ナマコだからです。中国産のナマコはほとんどが養殖ナマコで天然ナマコはほとんどありません。「中国最高級の大連産天然ナマコ」として売られているナマコは北海道や青森産ナマコです。日本産なのに何故なんだと歯がゆい思いをするばかりです。なんとかこのナマコ流通の状況を変えるのが定年後の仕事です。

平成29年度卒業生・修了生の祝賀会ならびに就職・進学先

平成30年３月23日に、平成29年度の農学生命科学部卒業証書授与式および大学院農学生命科学研究科の学位記授与式が行われた。今年度の学部卒業生は181名、大学院修士課程修了生は31名で、農学部と農学生命科学部をあわせた卒業生は7,663名、研究科修了生は1,102名となった。

学部203多目的室にて記念写真撮影の後、学部・後援会・同窓会共催の祝賀会兼同窓会歓迎会がコラボレーションセンター８階八甲田ホールで行われ、恩師や友人との別れを惜しんだ。

卒業祝賀会の費用の一部が同窓会費で賄われています。また、学部卒業・大学院修了記念写真の費用は全額が同窓会費で賄われています。

本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各１名である）。（平成30年３月28日現在）

生物学科
青森オリンパス（株）、ノバルティスファーマ（株）、（株）TRNOAS、（株）VSN、森久保薬品（株）、（株）アスコ、日拓リアルエステート（株）、（株）エー・シー・イー、（株）中野ビジネスグループ、（株）カインズ、稲毛屋、（株）ノベルズ、神畑養魚（株）、（株）れんせい、東北化学薬品（株）、（株）新教育センター、農林中央金庫、（株）青森銀行、（株）創英コーポレーション、北海道公立学校、青森県職員、弘前大学大学院（8）、北海道大学大学院（2）、東北大学大学院、筑波大学大学院、近畿大学大学院、岐阜大学大学院、総合研究大学大学院

分子生命科学科
一般社団法人青森県薬剤師会衛生検査センター、大船海産（株）、三洋貿易（株）、（株）シイエヌエス、（株）サングリン太陽園、（株）ワダカン、公益財団法人青森県りんご協会、クリタ・ケミカル北海道（株）、七十七銀行、ジャルロイヤルケータリング（株）、北海道糖業（株）、よつ葉乳業（株）、レンゴー（株）、北海道開発局、札幌国税局、埼玉県警、北海道職員、青森県職員、弘前大学大学院（16）、東北大学大学院（3）、北海道大学大学院

生物資源学科
よつ葉乳業（株）、（株）HRインキュベータ、秋田県厚生農業協同組合連合会、（株）マリーマーブル、メディパルフーズ（株）、（株）ユニバース、伊藤ハムデイリー（株）、（株）青森銀行、上北農産加工（株）、WDB（株）、フタバ食品（株）、北海道職員（2）、青森県職員、仙北市職員、岩手県職員、茨城県警、弘前市職員、弘前大学大学院（10）、皇學館大学

園芸農学科
（株）薬王堂、独立行政法人農畜産業振興機構、生活協同組合コープあおもり、（株）ジェー・シー・スタッフ、（株）東邦銀行、（株）セコマ、医療法人社団 レディースクリニック京野 京野アートクリニック、（株）セブン-イレブン・ジャパン、全国農業協同組合連合会　青森県本部、（株）ナシオ、有限会社カントリーガーデン、（株）フリーデン、（株）東洋コーポレーション、（株）マーキュリー、くろがね産業（株）、（株）ヨークベニマル、丸善葡萄園、（株）ライフフーズ、青森県農村工業農業協同組合連合、（株）リッチロード、全国農業協同組合連合会　長野県本部、（株）七十七銀行、日本アクセス北海道（株）、（株）成城石井、（株）コメリ、（株）折兼、栃木県公立学校、青森県公立学校、玉村町職員、福島県職員、秋田県職員、弘前大学大学院（7）、京都大学大学院

地域環境工学科
北海道土地改良事業団体連合会、大地コンサルタント（株）、基礎地盤コンサルタンツ（株）、（株）ハシモトホーム、東日本旅客鉄道（株）、（株）フジヤマ、岩手県土地改良事業団体連合会、（株）興和、若鈴コンサルタンツ（株）、（株）森事務所、中央コンサルタンツ（株）、（株）竹中土木、日本工営（株）、（株）復建エンジニヤリング、（株）シン技術コンサル、（株）復建技術コンサルタント、経済産業省、農林水産省東北農政局、国土交通省北海道開発局、青森県職員（5）、中泊町職員、秋田県職員、北海道職員、酒田市職員、千葉県職員、弘前大学大学院（2）

＜大学院農学生命科学研究科修了生＞
生物学コース
（株）ANAケータリングサービス、（株）キタコン、（株）岩手芝浦電子、（株）道水、（株）武蔵野、エムエス機器（株）、六甲バター（株）、岩手大学大学院（2）

分子生命科学コース
（株）テクノプロ　テクノプロ・エンジニアリング社、テラテクノロジー（株）、一般社団法人青森県薬剤師会、日糧製パン（株）、岩手大学大学院

生物資源学コース
（株）ちとせ研究所、WDBエウレカ（株）、ホクレン農業協同組合連合会、よつ葉乳業（株）、積水メディカル（株）、全国農業協同組合連合会、北海道コカ・コーラボトリング（株）

園芸農学コース
（株）東京かねふく、ユーロフィンNDSC　F&E（株）、北海道職員

地域環境工学コース
東日本旅客鉄道（株）、岩手大学大学院

新任教員の自己紹介

中　島　　晶　教授（食料資源学科）

2017年４月１日付けで農学生命科学部食料資源学科に着任しました。これまで、中枢神経系に対して作用を有する化合物の薬理作用や毒性について研究してきました。今後は、これまでの経験や知識を活用しながら、機能性食品の開発や地域への貢献に向けて取り組みたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

佐　藤　之　紀　教授（食料資源学科）

前任校での前期定期試験を終えて、ねぷた祭開催の８月１日に着任いたしました。生命科学を広い視点で眺めますと奇跡の連続でありますが、私が本同窓会の特別会員になることも奇跡の一つと言えましょう。この奇跡を無駄にしないよう、初めから机にずっと坐ってばかりいる学生ではなく、とにかく動いて動き終わった後にそれまでの結果を考える習慣を身につけた学生を社会へ送り出したいと考えています。同窓の先達の皆様方、教え子をどうぞよろしくお願い申し上げます。

佐　藤　孝　宏　准教授（国際園芸農学科）

2017年４月に農学生命科学部国際園芸農学科に着任いたしました佐藤孝宏と申します。

専門は国際農業開発論、熱帯農学で、これまで中東やインド、東南アジアにてフィールドワークを行い、環境や技術、制度の変化が地域社会に与える影響を学際的に分析してきました。

今後も持続可能な農業・農村開発に向けた研究・教育の推進に全力を尽くす所存です。

会費納入と住所通知のお願い

平成29－30年度会費5,000円を、同封致しました振込用紙でお納め下さいますようお願い致します。
なお、すでに平成29－30年度会費をお納め頂いた会員には振り込み用紙を同封しておりません。
転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報下さい。

同窓会事務局

〒036-8561　弘前市文京町３　弘前大学農学生命科学部同窓会

泉　　完	電話　0172－39－3843	E-mail	mizumi@hirosaki-u.ac.jp
加藤　　幸	電話　0172－39－3869	E-mail	kato@hirosaki-u.ac.jp
濱田　茂樹	電話　0172－39－3772	E-mail	shamada@hirosaki-u.ac.jp

教職員人事

退職（定年退職）　平成30年３月末日

戸羽　隆宏（とば　たかひろ）
教授（食料資源学科）

鈴木　裕之（すずき　ひろゆき）
教授（国際園芸農学科）

澁谷　長生（しぶや　ちょうせい）
教授（国際園芸農学科）

採用（新任）

中島　晶（なかじま　あきら）
教授（食料資源学科）　平成29年４月１日

佐藤　之紀（さとう　ゆきのり）
教授（食料資源学科）　平成29年８月１日

佐藤　孝宏（さとう　たかひろ）
准教授（国際園芸農学科）　平成29年４月１日

佐藤加寿子（さとう　かずこ）
准教授（国際園芸農学科）　平成29年10月１日

（昇任）

牛田　千里（うしだ　ちさと）
教授（分子生命科学科）　平成30年１月１日

曽我部　篤（そがべ　あつし）
准教授（生物学科）　平成29年６月１日

母校援助費で整備されました

同窓会では、学部建物周辺の環境整備に役立てていただくことを目的として、会費収入の一部を学部に寄付しています。平成29年度は、校舎中庭にあるサワラの剪定を行いました。

作業前

作業後

平成29-30年度　同窓会総会報告

平成29－30年度総会が、平成29年７月１日16時から菊富士本店において開催されました。平成27－28年度事業報告および会計報告、平成29－30年度の事業計画、予算および役員案について、事務局より報告と提案がなされ、質疑応答の後、承認されました。総会終了後には、懇親会が執り行われました。

１．平成27－28年度事業報告

(1) 平成27年度

H27. 5. 11　同窓会報第33号発行
H27. 5. 14　全学同窓会会費（129,500円）の納入
H27. 6. 26　同窓会役員会開催（於弘前大学農学生命科学部）
H27. 7. 4　同窓会総会開催（於弘前大学農学生命科学部）
学部創立60周年記念式典・講演および祝賀会共催
H27. 7. 24　秋田支部総会への出席（泉・濱田教員出席）
H27. 10. 5～12. 4　東日本大震災被災学生勉学支援公募
H27. 9. 24　同窓会報第33号他[注1)]の在学生保証人への送付（成績通知表に同梱）
H28. 2. 5　推薦入試合格者への同窓会報第33号他[注2)]の発送（入学手続き書類に同梱）
H28. 3. 3　前期日程合格者への同窓会報第33号他[注2)]の発送（入学手続き書類に同梱）
H28. 3. 23　卒業・修了祝賀会共催（同窓会入会祝賀会も兼ねる）
H28. 3. 20　後期日程合格者への同窓会報第33号他[注2)]の発送（入学手続き書類に同梱）

注1) 会長挨拶状（会費納入督促状）・振込用紙・同窓会報33号・全学同窓会報16号
注2) 会長挨拶状（入会案内）・同窓会規約・振込用紙・同窓会報33号・全学同窓会報16号

(2) 平成28年度

H28. 6. 3　同窓会報第34号発行
H28. 5. 24　全学同窓会会費（150,500円）の納入
H28. 9. 26　同窓会報第34号他[注1)]の在学生保証人への送付（成績通知表に同梱）
H29. 2. 14　推薦入試合格者への同窓会報第34号他[注2)]の発送（入学手続き書類に同梱）
H29. 3. 15　前期日程合格者への同窓会報第34号他[注2)]の発送（入学手続き書類に同梱）
H29. 2. 8　平成27・28年度分母校援助費（350,000円）納入
H29. 3. 23　卒業・修了祝賀会共催（同窓会入会祝賀会も兼ねる）
H29. 3. 27　後期日程合格者への同窓会報第34号他[注2)]の発送（入学手続き書類に同梱）

注1) 会長挨拶状（会費納入督促状）・振込用紙・同窓会報34号・全学同窓会報17号
注2) 会長挨拶状（入会案内）・同窓会規約・振込用紙・同窓会報34号・全学同窓会報17号

〈参考〉
（平成29年度）

H29. 5. 17　同窓会報第35号発行
H29. 6. 9　全学同窓会会費（150,500円）の納入
H29. 6. 23　同窓会役員会開催（於弘前大学農学生命科学部）
H29. 7. 1　同窓会総会開催（於弘前市菊富士本店）

2．平成27－28年度決算報告

収　入

項目	項　目	H27-28年度予算(案)	H27年度	H28年度	H27-28年度決算	H25-26年度決算	達成率(%)	摘　要
A	繰越金	￥3,234,611	￥3,234,611	－	￥3,234,611	￥4,696,152	100%	
B	正会員会費	￥2,250,000	￥1,525,000	￥585,000	￥2,110,000	￥1,530,000	94%	【参考】522名(2007-2008)→435名(2009-2010)→487名(2011-2012)→306名(2013-2014)→422名(2015-2016)
C	入会費	￥1,850,000	￥1,120,000	￥870,000	￥1,990,000	￥1,980,000	108%	【参考】240名(2007-2008)→189名(2009-2010)→160名(2011-2012)→198名(2013-2014)→199名(2015-2016
D	利息	￥1,500	￥553	￥156	￥709	￥1,415	47%	
E	振替手数料	￥-82,550	￥-32,224	￥－9,198	￥－41,422	￥－54,210	50%	
F	その他	￥30,000	￥30,000	￥－10,000	￥20,000	￥90,000	67%	役員会懇親会参加費￥2,000×15名－入会金二重払いの返金￥10,000
	合計	￥7,283,561	￥5,877,940	￥1,435,958	￥7,313,898	￥8,243,357	100%	

支　出

項目	項　目	H27-28年度予算(案)	H27年度	H28年度	H27-28年度決算	H25-26年度決算	達成率(%)	摘　要
1	会報発行費	￥2,800,000	￥1,381,097	￥1,604,176	￥2,985,273	￥2,784,963	107%	
2	卒業祝賀会費	￥900,000	￥307,656	￥296,421	￥604,077	￥897,624	67%	
3	支部派遣費	￥100,000	￥46,288	￥0	￥46,286	￥46,000	46%	2015年に秋田県
4	母校援助費	￥450,000	￥0	￥350,000	￥350,000	￥790,432	78%	2015-2016年分＝2013-2014の会費収入の10%（35万円）を寄付。当初、計画した被災学生の貸し付け金（10万円）は希望者がなく制度が打ち切りになったため使用せず
5	総会経費等	￥45,000	￥111,900	￥0	￥111,900	￥132,000	249%	
6	庶務・管理費	￥60,000	￥13,000	￥20,000	￥33,000	￥60,000	55%	
7	通信・印刷費	￥20,000	￥47,439	￥5,100	￥52,539	￥17,527	263%	
8	慶弔費	￥10,000	￥3,592	￥2,667	￥6,259	￥2,700	63%	
9	全学同窓会会費	￥259,000	￥129,500	￥150,500	￥280,000	￥277,500	108%	
10	予備費(繰越)	￥2,639,561	￥0	￥2,844,564	￥2,844,564	￥3,234,611	108%	
	合計	￥7,283,561	￥2,040,470	￥5,273,428	￥7,313,898	￥8,243,357	100%	

平成 29 年 6 月 23 日

会計監査　氏名　斎藤竜　印（サインでも可）

3．平成29－30年度事業計画

(1) 役員会の開催
(2) 総会の開催
(3) 会報第35および36号の発行（35号は発行済み）
(4) 支部活動の支援（会員名簿の提供、通信連絡費の補助、役員や教員の派遣）
(5) 全学同窓会会費の納入
(6) 学部の環境整備に関わる経費の支援（母校援助費として寄附）
(7) 卒業・修了記念写真撮影の実施
(8) 卒業・修了祝賀会共催（同窓会入会祝賀会も兼ねる）および懇話会の主催

4．平成29－30年度予算案

収　入

項目	項　目	H29-30 年度	H27-28 年度実績	H27-28 年度予算(案)	前期比 (%)	摘　要
A	繰越金	¥2,844,564	¥3,234,611	¥3,234,611	88%	
B	正会員会費	¥2,250,000	¥2,110,000	¥2,250,000	100%	450名×¥5,000
C	入会費	¥2,000,000	¥1,990,000	¥1,850,000	108%	200名×¥10,000
D	利息	¥700	¥709	¥1,500	47%	
E	振替手数料	¥－84,500	¥－41,422	¥－82,550	102%	納入予想（入会＋定期会費＝650名）×¥130
F	その他	¥20,000	¥20,000	¥30,000	67%	
	合計	¥7,030,764	¥7,313,898	¥7,283,561	97%	

支　出

項目	項　目	H29-30 年度予算(案)	H27-28 年度実績	H27-28 年度予算(案)	前期比 (%)	摘　要
1	会報発行費	¥3,000,000	¥2,985,273	¥2,800,000	107%	年１回×２年分
2	卒業祝賀会費	¥600,000	¥604,077	¥900,000	67%	
3	支部派遣費	¥50,000	¥46,286	¥100,000	50%	
4	母校援助費	¥410,000	¥350,000	¥450,000	91%	2015-2016会費収入（410万円）の１割＝41万円を2017-2018分として納入
5	総会経費等	¥100,000	¥111,900	¥45,000	222%	
6	庶務・管費	¥30,000	¥33,000	¥60,000	50%	2015-2016実績から算出
7	通信・印刷費	¥50,000	¥52,539	¥20,000	250%	2015-2016実績から算出
8	慶弔費	¥10,000	¥6,259	¥10,000	100%	
9	全学同窓会会費	¥301,000	¥280,000	¥259,000	116%	¥150,500×２年 *定員増に伴い¥129,500 → ¥150,500
10	予備費（繰越）	¥2,479,764	¥2,844,564	¥2,639,561	94%	
	合計	¥7,030,764	¥7,313,898	¥7,283,561	97%	

5．平成29－30年度役員

名誉会長ならびに顧問

役職名	氏　名	現あるいは前役職	卒業年	研究室名
名誉会長	佐々木　長　市*	学部長		
顧　問	橋　本　　勝*	前学部長		
	豊　川　好　司	元学部長	昭38	畜産
	岩　井　邦　彦	元会長	昭32	土肥
	三　上　　巽	元会長	昭42	農経
	成　田　　博	元副会長	昭53	果樹
	泉　谷　雅　昭	元副会長	昭51	水利
	西　川　明　満	元副会長	昭45	作物
	板　垣　宣　志*	前副会長	昭56	水利

＊新任

役員

役職名	氏　名	勤　務　先　等	卒業年	研究室名	
会　長	一　戸　洋　次	元青森県農林水産部長	昭43	土肥	
副会長	高　谷　清　孝	青森県農林水産部次長	昭57	育種	
	熊　谷　幸　一*	弘前市財務部長	昭57	土肥	
	黒　滝　英　樹	全農青森県本部米穀部長	昭60	農経	
監　事	齊　藤　　寛	元弘前大学農学生命科学部	昭42	土肥	
	岩　谷　　健	ＪＡ全国監査機構青森県審査部専任審議役	昭56	農経	
支部長あるいは代表	熊　谷　幸　一	弘前市財務部長	昭57	土肥	弘前支部
	黒　滝　英　樹	全農青森県本部米穀部長	昭60	農経	東青支部
	中野渡　牧　雄	十和田地域広域事務組合業務課推進監	昭53	水利	上十三支部
	松　本　　勤	元秋田県立大学短期大学部長	昭39	植病	秋田支部
	柴　田　三　郎*	山形県最上総合支庁農村計画課長	昭56	農地	山形支部
	尾　形　　正	(公社) 福島県植物防疫協会常務理事	昭51	植病	福島県支部
	木　下　雅　公*	静岡県くらし・環境部環境局水利用課長	昭55	造施	中部農工会（仮称）
評議員	工　藤　啓　一	元弘前大学農学生命科学部	昭38	作物	
	工　藤　　明	元弘前大学農学生命科学部教員	昭47	水利	
	櫻　田　隆　夫	東北建設コンサルタント（株）	昭52	造施	
	蛯　名　正　樹	弘前市副市長	昭53	農地	
	長谷川　幸　治*	元青森県庁	昭54	水利	
	田　中　　満	青森県立弘前実業高等学校	昭58	育種	
	駒　井　秋　浩	青森県立弘前実業高等学校	昭59	果樹	
	清　藤　文　仁	青森県産業技術センター農林総合研究所	昭59	生化	
	齋　藤　知　明*	青森県産業技術センター弘前地域研究所	昭59	畜産	
	赤　平　次　郎*	青森県農林水産部構造政策課長	昭61	園利	
	東　　信　行	弘前大学農学生命科学部	昭62	生物学科	
	鳴　海　　純	青森県立柏木農業高等学校教諭	平６	果樹	
	山　本　晋　玄	青森県農林水産部りんご果樹課	平11	植病	
	栗　田　大　輔	弘前大学農学生命科学部	平16	分子生物	
	房　　家　琛	弘前大学農学生命科学部（金木農場）	平16	畜産（院）	
	越　後　博　之*	青森県立柏木農業高等学校	平16	生物生産	
	福　田　和　光	大鰐町役場	平19	水利	
	澤　田　　勲	相馬村農業協同組合	平19	生物生産	
	小　林　　達	青森県産業技術センターりんご研究所研究員	平24	果樹	
幹　事	泉　　完*	弘前大学農学生命科学部	昭53	水利	総務幹事
	濱　田　茂　樹	弘前大学農学生命科学部	平９	生化	情報幹事
	加　藤　　幸	弘前大学農学生命科学部	平４	造施	会計幹事

平成27・28年度末で退任

役職名	氏　名	勤　務　先　等	卒業年	研究室名
名誉会長	橋　本　　勝	前学部長		
	佐々木　長　市	元学部長		
顧　　問	高　橋　秀　直	元学部長		
	鈴　木　裕　之	元学部長		
副 会 長	板　垣　宣　志	弘前市建設部長	昭56	水利
評 議 員	工　藤　信　裕	元青森県庁	昭45	水利
	古　舘　行　雄	名久井農業高校	昭55	蔬花
	奈良岡　　馨	青森県産業技術センター弘前地域研究所技術支援部長	昭56	農利
幹　　事	戸　羽　隆　宏	弘前大学農学生命科学部	昭50	農利

弘前大学農学生命科学部同窓会規約

平成27年７月４日改正

第１条　本会は弘前大学農学生命科学部同窓会と称し事務局を弘前大学農学生命科学部内に置く。

第２条　本会員を正会員、特別会員、準会員とし、学部卒業生ならびに大学院修了生を正会員、母校教員、前教員（前教官）及び関係者を特別会員とし、在学生を準会員とする。

第３条　本会は母校の発展に積極的に寄与し、会員相互の連絡、親睦を図ることを目的とする。

第４条　本会の目的達成のため下記の事業を行う。
１．会報の発行
２．支部の設置
３．その他本会目的達成のため必要なる事項

第５条　本会に次の役員を置く。
１．会　　長　　会員中より役員会で推薦し、総会で決定する。
２．副 会 長　　〃
３．監　　事　　〃
４．支 部 長　　支部総会で正会員より選出する。
５．評 議 員　　総会に於て正会員中より30名以内を選出する。
６．幹　　事　　正会員中より若干名を会長が委嘱する。

第６条　役員の任務を次の如く定める。
１．会　　長　　本会を代表し会務を統理する。
２．副 会 長　　会長を補佐し、会長の代理をつとめる。
３．監　　事　　会計を監査する。
４．支 部 長　　支部を代表し、支部の事務をつかさどる。
５．評 議 員　　役員会を構成する。
６．幹　　事　　本会の会務を担当する。

第７条　役員の任期
１．会長、副会長、監事、評議員および幹事の任期は２年と定める。
２．支部長の任期は支部の決定による。

第８条　本会に名誉会長と顧問を置く。
１．名誉会長　　学部長を推戴する。
２．顧　　問　　学部長および正副会長の経験者から、会長が本人の内諾を得たうえで委嘱する。副会長経験者の任期は委嘱した会長の任期内とする。

第９条　総　　会
１．通常総会　　隔年毎とし期日は役員会に於て決定するものとする。
２．臨時総会　　役員会に於て必要と認めた場合にこれを開く。
３．総会に於て次の事項を審議する。
イ　過去２年間の事業報告及び収支決算報告
ロ　今後２年間の事業計画
ハ　予算案の審議
ニ　規約改正
４．総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
５．議長は総会に於て出席会員中より選出する。

第10条　役　員　会
１．役員会は会長、副会長、監事、支部長、評議員及び幹事をもって構成する。
２．役員会は会長が招集し、本会の方針、会の改廃その他重要事項を審議し、これを総会に提案する。

第11条　本会の経費は会費及び寄附金をもってこれに充てる。
１．会計年度は４月１日から翌々年３月31日までの単年度とする。
２．会　　費
入会費　10,000円（入学時納入）
正会費　１年度（２年間）5,000円
（２年分前納）

申し合せ事項

１．特別会員、正会員が逝去した場合、弔電をもって弔意を表する。
２．学部中退者で希望者は正会員とする。

同窓生近況だより

宮城県在住の同窓生より

2017年12月１日、宮城県庁に勤務する農業工学系（旧農業工学科、旧農業システム工学科、旧地域環境科学科、地域環境工学科）の卒業生12名のうち10名が仙台市内の青森産地直送炉端居酒屋「宵宮がほんず」に集い同窓会を行いました。

静岡県在住の同窓生より

2017年９月１日、佐々木農学生命科学部長、加藤（幸）同窓会幹事が伊豆のワサビ田調査に訪問されたのに合わせ、沼津市内の魚河岸割烹さかなや「千本一」に卒業生８名が集まり同窓生の懇親を深めました。

同窓生の弘前訪問

2018年２月６日、静岡県庁に勤務する農業土木系の卒業生13名のうち８名が弘前を訪問されました。佐々木学部長のほか、元教員の工藤（明）先生、角野先生が参加され、同窓会からは泉幹事、加藤（幸）幹事が参加し懇親を深めました。

・職場や地域での同窓会、久しぶりの同期会など、同窓生の近況写真を同窓会報に掲載してみませんか！同窓会報への記事掲載ご希望の方は、写真と簡単な説明文をメール（kato@hirosaki-u.ac.jp）して下さい。

最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい（http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/）